

■令和3年度 出前授業 大勝小学校(龍郷町)開催

日 時: 令和3年11月15日(月) 9時45分～11時25分
場 所: 大勝小学校 体育館
対 象: 5年生16名 2時限目、6年生23名3時限目
参加者: 生徒39名、教員3名、協議会運営委員16名 合計58名

奄美地区地域自立支援協議会(以下協議会)では、令和元年度より障害の理解について普及啓発への取り組みの一環として実施しています。今回は龍郷町大勝小学校5年生、6年生の生徒を対象に行い、協議会運営委員の人たちも市町村を中心たくさん参加して行いました。見えにくい障害として、精神障害の理解を促進することが目的です。心の病気を題材にした絵本や、東京パラリンピックの動画を紹介し、見える障害、見えない障害があること、困ったり悩んでる人が周りにいたら、自分たちにどんなことができるのかな?などを考えました。これまで、宇検村田検小学校、龍郷町龍郷小学校で開催しています。新型コロナウイルス感染症の状況に配慮しながら、今後も各地の小学校で実施する予定です。

内容: 絵本の読み聞かせ『そらみみがきこえたひ』
グループにわかれて、見えない(心の病気)障害について、生徒の感想を話してもらう

◎児童の気づき

- 【心の病気になったウサギさんが困っていたこと】
 - ・一人ですっと悩んでいる、まわりから変な目でみられる、眠れなくてたいへんそう、人が怖くなりそう、誰も言っていることを信じてくれなくてかわいそう、親にもわかってもらえなくて一人でかかえこんでいる。
 - ・生活がしにくくなって困っている
- 【自分たちまわりの人ができること】
 - ・やさしく接することができたらいい、やさしい言葉を伝える、どうしたの?と声をかける
 - ・友達だったら相談にのってあげる
 - ・ちゃんと話をきいて理解する
- 【もし自分がウサギさんだったら】
 - ・たすけてほしい、かかえこまず誰かに相談する

◎児童の感想

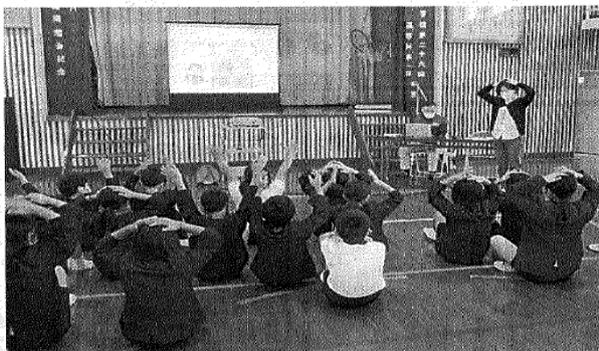
- ・こんな病気があることをはじめて知った
- ・もし、自分の知っている人が空耳が聞こえると言ったら、病院でみてもらったらって言う。
- ・友達がそういうふうになったら心配しちゃう
- ・一人で考え込まないでお母さんに相談したことがよかった
- ・人が困っていたら助けてあげたい

南海日々新聞掲載

地域自立支援協議会が授業

自分たちにできること何かな

大勝小学校 目に見えない障がい学ぶ



龍郷町の大勝小学校(前田浩之校長、児童127人)で15日、障がいを学ぶ出前授業がありました。参加したのは5、6年生約40人。奄美地区地域自立支援協議会の担当者を講師に迎え、外見から気づきにくい精神障がいについて理解を深めました。

この出前授業は、障がい者も暮らしやすい社会を

大勝小児童が精神障がいについて理解を深めた出前授業＝龍郷町の同校(奄美地区地域自立支援協議会提供)

指す取り組みの一環です。同協議会の担当者は、心の病気に関する絵本や東京パラリンピックの映像を紹介し「障がいは必ずしも目に見えろとは限らない。自分たちにできることは何かな」と問い掛けました。

授業を通じて、児童たちは精神障がいについて「周りから変な目で見られ、1人で悩んでいる」「誰も信じてくれなくてかわいそう」と実感。困っている人のため自分にはできることは「優しく接する」「声を掛ける」「ちゃんと話を聞いて理解する」と考えました。

